

2020年4月1日

一般社団法人 日本広告業協会

## 2019年クリエイター・オブ・ザ・イヤーに 川腰 和徳氏（電通）、神田 祐介氏（博報堂） 史上初の2名同時受賞

一般社団法人 日本広告業協会（理事長 成田純治・(株)博報堂 取締役相談役）主催による2019年クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞は、3月4日にクリエイティブ委員会による審査会にて受賞者を選出し、第316回理事会において承認、決定した。

同賞は、当協会会員社の中で2019年に最も優れたクリエイティブワークを行ったクリエイター個人を表彰するもので、1989年設立以来、今年度で31回目を迎える。

2019年は、会員各社の選考を経てノミネートされた37名（27社）のクリエイターから、別紙の通りクリエイター・オブ・ザ・イヤー2名、メダリスト8名が選ばれた。

今回、クリエイター・オブ・ザ・イヤーは、30年の歴史上初めて2名のクリエイターを選出した。

近年顕著になってきた広告クリエイターの役割の多様化を象徴するように、今年もエントリー段階から様々なタイプのクリエイター達の推薦が多く寄せられた。そのなかでイヤーの両名については、タイプは異なるものの、それぞれ卓越したアイデアと実践力を持ち、双方クリエイター・オブ・ザ・イヤーの名にふさわしく、全く甲乙つけることはできないという結論に至り、史上初の2名同時選出とした。

クリエイター・オブ・ザ・イヤーに選ばれた川腰和徳氏（株電通）は、アートディレクターならではの大胆で緻密なデザイン力を発揮し数々の広告賞を受賞され、また映画『君の名は。』地上波放送プロジェクトでは、これまで誰もやったことがない発想を実現させた点が評価された。

また、神田祐介氏（株博報堂）は、「連続10秒WEBドラマ」という全く新しいコンテンツを生み出し国内外のファンを惹きつけ、また広告の枠さえも飛び出しTVドラマの企画監修まで手掛ける、新鮮でクオリティの高いコンテンツを生み出す手法が評価された。

表彰式は、6月1日に開催予定の2020年度定時総会・記念式典にて行う。

また、同時にJAAAレポート臨時増刊号『2019年クリエイターズ・オブ・ザ・イヤー特集』を発行し、受賞者並びにノミネートを広く紹介する。

## 2019年クリエイター・オブ・ザ・イヤー賞 受賞者一覧

### < 2019 CREATOR OF THE YEAR 2名 >

・川腰 和徳

電通 第3CRプランニング局 クリエーティブ・ディレクター／アート・ディレクター

・神田 祐介

博報堂 第一クリエイティブ局 クリエイティブディレクター／CMプランナー

### < 2019 CREATOR OF THE YEAR MEDALIST 8名 >

・木村 洋

TBWA\HAKUHODO Disruption Lab Senior Art Director

・細川美和子

電通 CDC クリエーティブ・ディレクター／コピーライター

・荒井 信洋

TBWA\HAKUHODO Disruption Lab クリエイティブディレクター

・河西 智彦

博報堂 統合プランニング局 クリエイティブディレクター

・嶋田三四郎

博報堂DYメディアパートナーズ

クリエイティブ&テクノロジー局長兼統合クリエイティブGM

・玉川 健司

ADKマーケティング・ソリューションズ

エクスペリエンス・デザインセンター EXクリエイティブユニット クリエイティブディレクター

・辻中 輝

電通九州

クリエイティブ局 クリエーティブ・イノベーション部 コピーライター／CMプランナー

・三田 哲矢

WUNDERMAN THOMPSON TOKYO クリエイティブ・ディレクター

以上（敬称略・順不同）